

住民懇談会の開催について（案）

1. 目的

地区住民との直接的なコミュニケーションの場を設け、地区の公共交通実態の把握、今後の公共交通の具体的事業内容について地域の方の意見を把握するとともに、地区の公共交通のあり方について考える機会をつくることを目的とする。

2. 住民懇談会の展開

【計画策定段階】（平成22年度）

- ・地域、エリア単位で具体的に議論（市全体を総括的に考える「協議会」）

【実証実験段階】（平成23年度～平成25年度）

- ・実施施策の成果を評価・検証
- ・改善策の検討

【本格運行後（実証実験終了後）】（平成26年度）

- ・公共交通の利用主体として評価・検証を行い、地域に定着し持続できる公共交通をつくり育てるための改善策の検討を継続的に行う

3. 平成22年度の開催方法

市報等を通じて広報

- ・公共交通の現状、再編の必要性
- ・市の取り組み方針
- ・展開が考えられる手法（路線バスの再編、新たな交通システムの導入等）等



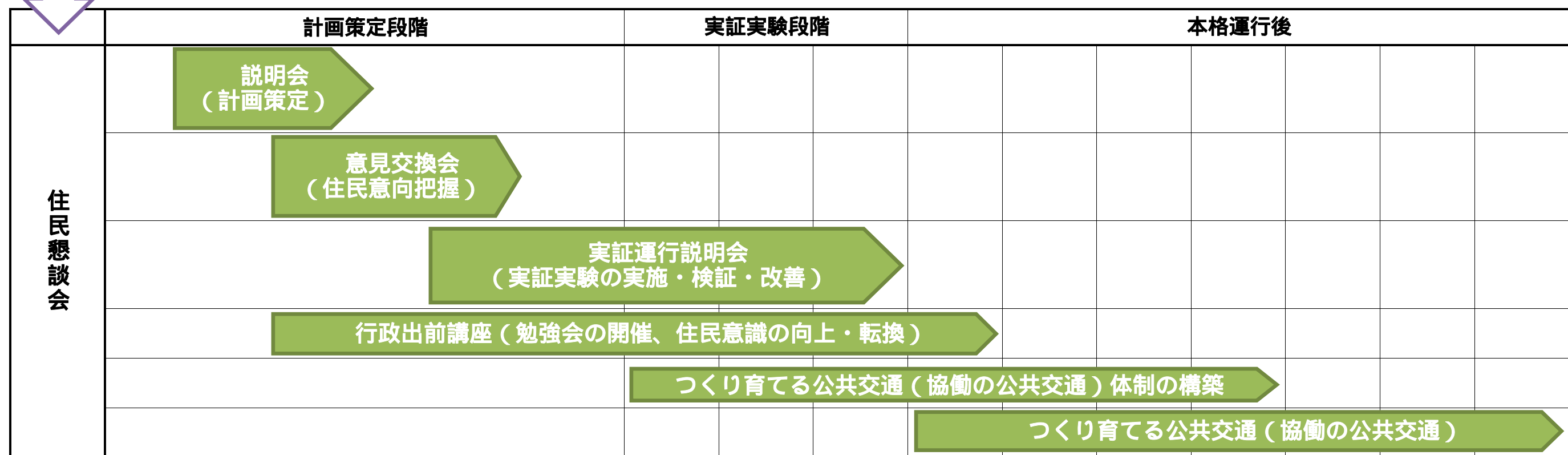
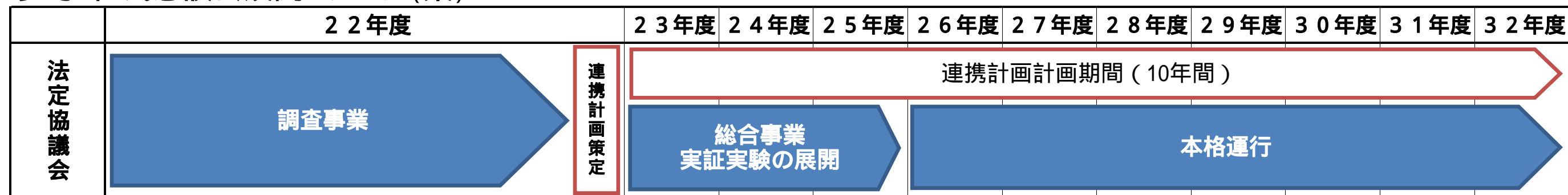
「市長とのふれあいトーク」と兼ねて開催

- ・開催時期：10月以降、順次開催
- ・再編案に基づき参集単位を検討し、懇談会の開催日等を調整し開催
- ・各地区において展開する公共交通について意向把握
- ・再編案に基づき市の関係部署職員（福祉施策担当等）の出席を要請
- ・協議会委員についても可能な限り出席をお願いしたい

参考資料

- ・参考：住民懇談会展開イメージ
- ・愛知県新城市：新城市における公共交通活性化の取組 路線を守り育てる会

参考：住民懇談会展開イメージ(案)



説明会(地区住民全体)

市の取り組み、将来構築する検討体制、各地区において展開が考えられる公共交通についての説明

意見交換会(地区住民全体または関係団体等)「市長とのふれあいトーク」として開催を検討

各地区において展開する公共交通について住民意向把握

実証運行説明会(実証運行実施地区住民全体)

実証運行事業の詳細または概要説明、実証運行の実績検証、事業改善策の説明

行政出前講座

地区・集落等の希望に応じ、公共交通に関する勉強会、住民意識の向上・転換に関する啓発

つくり育てる公共交通(協働の公共交通)

村上市が推進する「協働のまちづくり」の手法を公共交通分野にも応用し、市民・交通事業者・行政が、それぞれの持つ特性を活かしながら、補完しあい、協力し合い、対等な立場で取り組んでいく体制

新城市における公共交通活性化の取組 一路線を守り育てる会

愛知県新城市企画課

●背景

愛知県新城市は愛知県の東部に位置し、平成17年10月の3市町村（新城市、鳳来町、作手村）の新設合併により誕生しました。市域面積は499km²と、愛知県内では豊田市に次ぐ広さを有していますが、人口は約5万人と少なく、小さな集落が分散して点在している状況です。

また、本市の公共交通は、JR飯田線と複数の民間バス事業者が担ってききましたが、自家用車の普及に伴うバス利用者の減少によって、多くの路線において採算が取れずに、廃止を余儀なくされてきました。そのため、主要道路のほとんどをカバーしていたバス路線は、公的な補助によって存続する状況となり、そのための経費も増加傾向となっています。

さらに、少子化に伴う学校の統廃合が進み、学童の通学手段としてのバスの必要性和合わせて、人口に占める高齢者の割合も年々高まっており、高齢者の移動手段確保という意味においても、バスの必要性が高まっています。



図一愛知県新城市位置図

●連携計画と路線を守り育てる会の概要

このような状況の中、本市では、平成19年12月に地域公共交通会議を設置し、より住民にとって利便性が高く、かつ効率的な運行を作り上げるため、平成20年2月に「新城市地域公共交通総合連携計画」を策定しました。本計画では、バス路線を協議する場合は従来のような全市的な組織だけではなく、“ひとつのバス路線に限定した行政区の枠を超えた利用者、住民が参加する組織が必要である”という結論に至り、『路線を守り育てる会』が設置されました。概要は、以下のとおりです。

【路線を守り育てる会の概要】

①路線を守り育てる会の位置付け

- ・地域公共交通会議の下部組織として、各地域のバス路線を協議する「地域部会」と、さらに「路線を守り育てる会」（実証運行の路線単位）が組織されています。
- ・路線を守り育てる会で話し合われた内容は、新城市地域公共交通会議で尊重され審議されます。

②活動内容

【バス路線を作る】

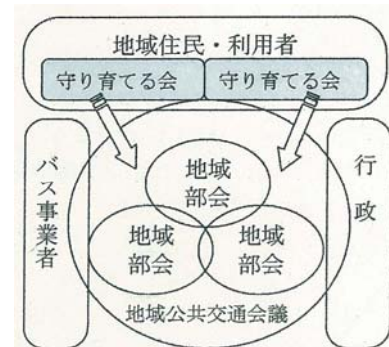
新たに路線を新設する場合は、事前に路線を守り育てる会を組織し、運行ルート、運行時間、運行回数などを協議します。参加メンバーは、行政区の役員、小中学生の保護者、老人クラブ会員、バス利用者などです。

【バス路線を守る】

実際の運行について実績データを分析し、無駄な運行を無くすことや、利用促進の取り組み等を行っています。場合によっては、運行ルート・運行時間の変更案をまとめる活動も行います。

【路線を育てる】

会員によるアンケート実施、利用促進のための情報チラシを作成（次頁参考図参照）するなど、地域のバス路線として育てるための自発的な取り組みを進めています。



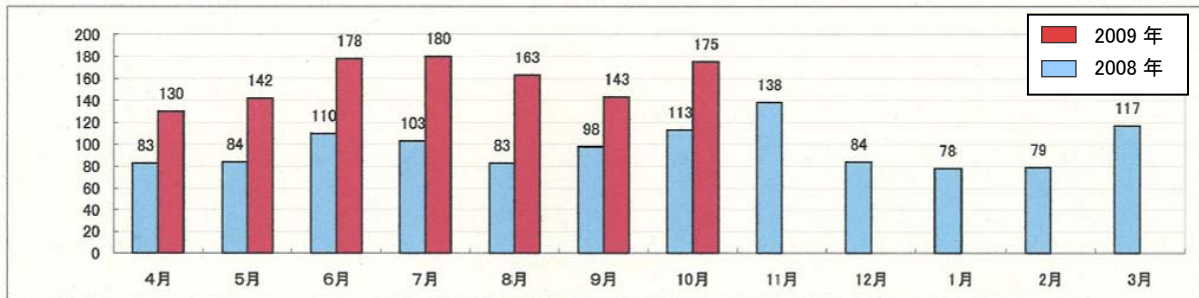
図一地域公共交通会議の検討体制

●路線を守り育てる会の活動効果

現在、路線を守り育てる会が組織されている路線は、実証運行路線である布里田峰線（市営バス）、つくであしがる線（市営バス）、西部線（4条路線）の3路線です。現在の対象路線のバス利用は、当会の会員の意見が反映され、通学および高齢者の通院・買い物を中心とした運行形態となっています。

これらの路線の中で、特に積極的な活動を行っている「つくであしがる線を守り育てる会」では、その活動効果として、顕著なバス利用者数の増加が見られます。以下の参考図は、会員の方が積極的に情報発信を行っている活動例で、自主作成しているバスかわら版です。

今後とも、上述の取組のほか、市民ニーズの把握と反映、料金体系の改善、積極的な情報提供などの複合的な方策を講じ、“住民に親しまれ住民が支え住民にとって便利な、新たな公共交通システム”の構築に向けて、取り組んでいきたいと考えています。



図一つくであしがる線の利用者数の推移

(単位:人/月)

表一平成20年度 守り育てる会の開催状況

路線名	開催状況
布里田峰線を守り育てる会	計5回(4月、5月、7月、9月、1月開催)
つくであしがる線を守り育てる会	計3回(9月、11月、1月開催)
西部線を守り育てる会	計2回(9月、12月開催)

【参考図】路線を守り育てる会の自発的な活動例 -つくであしがる線から守り育てる会-

つくであしがる線 秋号

年4回(季刊)、市営バスのホットな情報をお届けします。

7月9日 雨がしとしと降る水曜コースに乗り11:05(2便)鴨ヶ谷よりヨコガ博物館へ東南アジアの文化に触れ、入館料に付(コーヒーと持参のおにぎり)で昼食を取らせて頂き2:43(3便)にて帰りました。往きは診療所に行く(野柳の老人としゃべり川コダでお別れ。帰りはヨコガ博物館より乗車したら、往きの老人の傘があり運転手さんに「忘れ物です」と声をかけました。「診療所より乗られるので預かっています」との事。運転手さんとのコミュニケーションのバツリだと、雨にぬれる夏の作手の美しい景色を見ながら心豊かな[チョイ乗]の一日でした。
つくであしがる線守り育てる会 会員 村田 藤子

6月末から7月下旬にかけて、作手総合支所職員が、市営バスに乗り「乗降調査」を実施しました。利用者の方々と直接会話ができ貴重なご意見をたくさんいただきました。今回はアンケートの一部をご紹介します。

あしがる線 延べ48人

年齢は 70歳以上が39人 ● 60歳代が5人 ● その他4人

目的は 診療所32人 ● 買物18人 ● 帰宅6人 ● その他15人
その他: 読書・買い物・散歩・通院・通学・通勤

頻度は 週1・2回18人 ● 月1・2回26人 ● その他4人

満足度は 満足・やや満足36人 ● 不満・やや不満8人 ● 無回答4人

守義線 延べ37人

年齢は 70歳以上が18人 ● 60歳代が5人 ● 10歳代が14人

目的は 診療所11人 ● 買物11人 ● 通学・通勤16人 ● その他1人

頻度は 毎日16人 ● 週1・2回9人 ● 月1・2回10人 ● その他2人

満足度は 満足・やや満足37人 ● 不満・やや不満0人

裏面につづく

あしがる線水曜・土曜ルートで もみじ狩りに行きましょう!

唱歌が自然に口をついて出る景色そのままの巴川渓流沿いの紅葉(もみじ)見頃は11月下旬。くらがり溪谷⇒風来寺山⇒巴川の順に紅葉します。

小林バス停 2便で下車 → 渓流沿いを散策しながら改善センター方面へ → 改善センター前バス停3便で乗車

おすすめ情報 秋にぴったりのコースをご紹介します

守義線に乗って あつたかな里 涼風の里でひと休み

かあちゃん手作りメニューに舌つづみ、おいしい「えんまん餅(1個100円)」に新鮮な野菜! 周りを歩けば美しいせせらぎに、素朴な石仏さんに出会える。

善夫バス停 4・6便で下車 → 涼風の里 → 善夫バス停 5・7便で乗車

あしがる線火曜ルート 今年のフデガキは元気かな!

中河内の佐宗さん家にある柿の木(推定樹齢400年以上)は、今年橙色でいっぱいかな。

中河内老人部の家前バス停 2便で下車 → フデガキ 石仏群 観音堂 → 中河内老人部の家前バス停 3便で乗車

あしがる線水曜ルートで 秋の山寺とイヌツゲを見に行こう

須山にある善福寺(仁王様が有名)とイヌツゲ(樹齢数百年と推定され、県の天然記念物に指定されている)そして仏頭岩と雲電ガシを見てみよう。文殊山に登りやぐらから秋の山里を覗いてみよう。

須山バス停 2便で下車 → 善福寺周辺を散策 → 須山バス停 3便で乗車

利用者コーナー アンケート番外編

利用者の方から頂いたご意見をちょっと紹介。

「バスを無くさないで欲しい、継続して欲しい、無くなると困る」
「一人で住んでおり、バスがあるおかげで診療所やちょっとした買い物もできるのありがたい」
「グループでバスを使って作手の散歩を楽しんでいます」
「晴化して、送ってもらえないので助かる」
「市営バスの存在を知らない高齢者が多いのでPRをもっとすべきです」
「週1回では困ることがあるので、1日の便数を減らしても週の回数を増やしてほしい」
「時間をもっと正確に」

いただいたご意見を参考に、もっとおおげいの方々に気持ちよく利用していただけるよう努めてまいります。